

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	DAW II		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。 また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。					
授業概要						
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフトの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節＋α)の課題曲の作成					
【前期】 16～21回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 22～33回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成					
【後期】 34～35回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 36～37回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	32回(64単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング					
【前期】 3～7回目	ビジネス文書					
【前期】 8～13回目	ミュージックビジネス＃1-6					
【後期】 14～32回目	ミュージックビジネス＃7-25					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	アーティスト特別セミナー				
【前期】 4～6回目	外部ライブハウス実習				
【前期】 7～9回目	各コースイベント				
【前期】 10回目	アンサンブル発表会				
【後期】 11～13回目	コースイベント				
【後期】 14～16回目	ライブ見学				
【後期】 17～19回目	アンサンブル発表会				
【後期】 20回目	コース別ファイナルイベント				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブルⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～36回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【前期】 37～38回目	半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 39～71回目	アンサンブルとは何か 課題曲⑤～⑧ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 72～74回目	半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	スコアライティング&イヤトレ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	スコアライティング&イヤトレ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
相対音感及び読譜、PCでの楽譜作成ソフトによる譜面作成についての講義。					
到達目標					
単音、和音におけるインターバルの理解と相対音感の習得。楽譜作成ソフトによるマスター譜、パート譜の作成技術の習得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	旋律聴音(半音、全音、メジャースケール上のインターバル) 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識の復習、確認 ・五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど。				
【前期】 6～10回目	旋律聴音(3種類のトリックマイナースケール上のインターバル) 楽譜作成ソフト『Finale』の基礎操作方法。 ・組段、レイアウトの調整、反復記号、各種記号の配置、コードの打ち込み方				
【前期】 11～15回目	旋律聴音(その他のインターバル①) 楽譜作成ソフトを使ったマスター譜の作成(コード切れなし) ・リピートマークのみを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【前期】 16～20回目	旋律聴音(その他のインターバル②) 楽譜作成ソフトを使ったマスター譜の作成(コード切れあり) ・ダカーボ、ダルセーニョを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【後期】 21～24回目	和音聴音(トライアド4種類 Maj、Min、Aug、Dim) 楽譜の作成、読譜に必要な基礎知識の復習、確認(音符、休符の種類、各種記号など) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 25～29回目	和音聴音(テトラッド Maj7、6th、7th) 楽譜作成ソフトの基礎操作方法(テンキーを使った音符のステップ入力) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 30～34回目	和音聴音(テトラッド m6th、m7th) 楽譜作成ソフトでのパート譜(ギター、ベース、ドラム)の作成(基礎編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 35～37回目	和音聴音(テトラッド aug7th、m7th b5th、Dim7th) 楽譜作成ソフトでのパート譜、TAB譜の作成(応用編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターベーシックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ギターベーシックⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。 その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
1年次の教材である「Guitar course Basic1」の続編である「Guitar course Basic2」を中心に、基礎力を徹底に身に付ける実技授業。					
到達目標					
1年次で学んだ基礎的知識、技術の習得の徹底。それをもとに実践的な応用力を習得するノウハウを身に付ける事を目的とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	メジャースケールとインターヴァル ・1年次に学んだインターヴァルの理解向上を、メジャースケールを使いトレーニング。・併せて指板上の音の理解向上。 ・複数ポジションでトレーニングにより指板上での音程、音名の理解を深める。				
【前期】 6～10回目	トライアドとインターヴァル ・スケール上で理解したインターヴァルを、4種類のトライアド上でも理解を深めるトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。				
【前期】 11～15回目	テトラッドとインターヴァル ・トライアドで理解したインターヴァルを、テトラッドに広げてトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。				
【前期】 16～21回目 (前期試験)	3種類のトリックマイナースケール(ナチュラル、ハーモニック、メロディック) ・3種類のトリックマイナースケールのインターヴァル、音名を確認しながらトレーニング。 ・複数ポジションでのトレーニング。				
【後期】 22～24回目	テンションコード ・コードトーンとテンション ・テンションの種類(ナチュラルテンション、オルタードテンションなど)。				
【後期】 25～28回目	チャーチモードとBluenote Scale ・各モードスケールのインターヴァルの理解。・ダイアトリックコードとの関係とアプローチの実践。 ・Blues進行及びBluenoteとBluenote Scaleについて				
【後期】 29～31回目	ドミナント7thスケール ・メジャートライアドを含むコードに解決するドミナント7thスケール(Mixo-lydian Scale、Lydian ♭7Scale) ・マイナートライアドを含むコードに解決するドミナント7thスケール(Harmonic Minor Perfect 5th Below、AlfredScale) ・その他のドミナント7thスケール(whole tone scale、Harmonic minor perfect 5th below)				
【後期】 32～37回目 (後期試験)	アヴェイラブルノートスケール(今までの総まとめ) ・あらゆるコードに対するスケールの選び方、アプローチの方法。 ・循環コード、典型的なコードパターンを使った実践。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	ギターアドバンス		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターアドバンス	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
1年時に行った授業から更に踏み込んだ内容になっており、Keyから導き出されたDiatonic ChordsやSecondary Dominant、Sub Statute Dominantに付加されるTensionやそのコードに適合するAvailable Note Scale、導き出されたMode、Dominant 7th Scales、Upper Structure Triad、Perfect 4th Interval Buildなどを解析しながら授業を進めます						
到達目標						
スコアを見て考察し、その楽曲の付加されるTensionやScale、Chords等を実際に弾いてみながら楽曲に対してのアプローチなどを把握出来て弾ける事を目指します						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	・Diatonic ChordsのTone Intervalで9thを含むコード(-9th、9th、+9th)、Diatonic ChordsのTone Intervalで11thを含むコード(11th、+11th) ・コードプロGRESSIONに各Tensionを付加させて実際に弾いてみる ・Degree表記でのコードプロGRESSION I					
【前期】 6～10回目	・Diatonic ChordsのTone Intervalで13thを含むコード(-13th、13th) ・コードプロGRESSIONに各Tensionを付加させて実際に弾いてみる(-9th、9th、+9th、11th、+11th、-13th、13th) ・Degree表記でのコードプロGRESSION II					
【前期】 11～15回目	・Major Scale上のDiatonic Chords(Natural minor Scale上のDiatonic Chords)から導き出されたAvailable Note Scales 各種Church Modeから導き出されたコードプロGRESSION I ・Church Mode I = Ionian、Dorian、Phrygian Lydian、Mixo- Lydian、Aeolian、LocrianなどのTone Interval					
【前期】 16～20回目	・Harmonic minor Scale上から導き出されるAvailable Note Scales(Locrian#6、Ionian#5、Dorian#4、HP5 I、Lydian#2、Ultra Locrian) ・Melodic minor Scale上から導き出されるAvailable Note Scales(Dorianb2、Lydian aug、Lydianb7、Mixo-Lydianb6、Locrian#2、SuperLocrian) ・コードプロGRESSIONII Tensionを付加させ、各コードに適合するScaleを実際に弾いてみる					
【後期】 21～24回目	・Dominant 7th Scales I(Harmonic minor Perfect 5th Below(Phrygian Dominant))Tensionの考察『IⅡφ→V7』 ・Dominant 7th Scales II(Altered Scale)Altered Tensionを含むコードプロGRESSION IとScale、Tension『IⅡm7→V7→I』 ・Dominant 7th Scales II(Altered Scale)Altered Tensionを含むコードプロGRESSION IIとScale、Tension『IⅡφ→V7』、『IⅡm7→V7→Im』					
【後期】 25～29回目	・Dominant 7th Scales III(Combination Of Diminished Scale(Half WholeTone Scale))コードプロGRESSION とScale ・Dominant 7th Scales IV(WholeTone Scale)コードプロGRESSION とScale、Tension『IⅡm7→V→I』 ・Sub Stitute Dominant 7th Scales VI(Lydian b7th Scale)コードプロGRESSION とScale、Tension『IⅡφ→bIⅡ7→I』、『IⅡm7→bIⅡ7→Im』					
【後期】 30～34回目	・Dominant 7th Scales VII(Melodic minor Perfect 5th Below(Mixo-Lydian b6th))コードプロGRESSION とScale、Tension ・Upper Structure Triad I(Diatonic Chords上に構築されるUpper Structure Triad I)コードプロGRESSION とScale、Tension I ・Upper Structure Triad II(Diatonic Chords上に構築されるUpper Structure Triad II)コードプロGRESSION とScale、Tension II					
【後期】 35～37回目	・Perfect 4th Interval Buildとは、何か？1年次の内容である3度堆積和音から4度堆積として和音を考える ・Perfect 4th Interval Buildのコードを実際に作ってみる(2音積み、3音積み、4音積みなど) ・Perfect 4th Interval Buildを使ったコードプロGRESSION を当てはまるScale含めて実際に弾いてみる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	インプロヴァイズ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	インプロヴァイズ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験22年 ESPミュージカルアカデミー/ギターコース97年度卒。ギタリストとしてロックバンドを渡り歩き、様々なミュージシャンと交流し、サポートギター、セッション、レコーディング等の活動を経て、現在バンドに所属し活動中。自身が学んだ事、経験として得た知識を取り入れ実技授業を担当。					
授業概要						
ポップスやロックミュージックで使用頻度の高いスケール(音階)を中心に、スケールポジションの確認と音程を把握する。又、コードとの関係性を理解しながら、コード進行の中でのアプローチを組み立てられるスキルを身に着ける。						
到達目標						
アドリブソロやフレーズ、指定されたテーマフレーズやソロへの対応力の習得。 ・メトロノームを使い音符の長さを意識しながら各スケールの音程を身に着けていく。・指板上のブロックポジショニングから縦の移動を意識したフレーズ作りを意識。 ・弾き覚えのあるフレーズからよりコードの響きを意識した音選びを考える。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	1年次に学習したスケールポジションと理論的な解釈の確認。(メジャー系) ・メジャースケール・メジャーペンタトニックスケール ・コード進行に合わせた実演と応用。					
【前期】 6～10回目	1年次に学習したスケールポジションと理論的な解釈の確認(マイナー系) ・ナチュラルマイナースケール・マイナーペンタトニックスケール ・コード進行に合わせた実演と応用。					
【前期】 11～15回目	ブルース系(ドミナントコード含む)スケール ・メジャーブルース・マイナーブルース ・コードポジションを意識したフレーズの組み立て方。					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	マイナースケール3種(ポジション練習を始めとし、それぞれのスケールの特徴を捉えて弾き分ける。) ・ナチュラルマイナースケール・ハーモニクマイナースケール ・メロディックマイナースケール					
【後期】 21～24回目	ダイアトニックコードと機能について ・指板上でのコードトーンの確認とテンションノート。・各テンションコードの押え方とルール。 ・モードスケールその1(ミクソリディアン・ドリアンモード)					
【後期】 25～28回目	転調に対応したフレーズを考える(ディミニッシュ・ホールトーン含む) ・並行調での弾き分け方。・同主調での弾き分け方。 ・移調に対応するためには。					
【後期】 29～31回目	モードスケールその2 ・フリジアン・リディアン ・それぞれのスケールがマッチするコード進行を考える。					
【後期】 32～37回目 (後期試験)	総集編 ・自分がプレーする上で、最も得意なスケールを持つ。・コード進行を様々な視点から分析し、最もマッチしたスケールを割り当て弾く。 ・自分が弾いたフレーズを説明出来るのかを検証。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターパフォーマンスⅡ		授業形態・必・選	実習	必修
	学則上表記	ギターパフォーマンスⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年 サポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。				
授業概要					
発表会(ステージイベント)に向けてライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、ソロ、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。					
到達目標					
校内のみにならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギターリストとしてのポテンシャルの向上を図る。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われたギターパフォーマンス(ステージイベント)にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)				
【前期】 6～10回目	イベントライブの演奏楽曲決めと対策 ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・自分で購入したエフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。 ・購入したエフェクターが無い場合の対処法 ・ライブハウスやスタジオでよく目にするアンプとの使い方、サウンドメイキング法の伝授				
【前期】 11～15回目	イベントの反省から次のコンテストへの対策 ・イベントライブの反省会や今後への課題、見通し・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。 ・ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方間かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析)				
【前期】 16～19回目 (前期試験)	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う ・演奏楽曲に使われるメジャー&マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復) ・自身のギターパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等				
【後期】 20～24回目	個人の後期での目標設定 ・自由曲の演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・再度確認すべき、客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われたギターパフォーマンス(ステージイベント)にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)				
【後期】 25～28回目	楽曲に必要な各種スケールの練習 ・後期発表で使う楽曲のメジャースケール、マイナースケール全ポジションの理解、各ブロック毎に弾く練習。リズム、コードストローク練習 ・楽曲にでる特殊なコードへの対策(ダイアトニック外のコード等)				
【後期】 32～37回目 (後期試験)	授業内にて実践発表と卒業後の対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ ・実際に講師の前で演奏してもらい、2年間で学んだものすべて(演奏や自己プロデュース能力等)を披露				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターリスト研究		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターリスト研究	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 自身のバンドでギター・ヴォーカルとして活動後、サポートギタリストとして、ライブ、レコーディング、講師、メジャーアーティストへの演奏指導、MVへの出演、音楽誌の新機材検証企画でのレコーディングなど様々な活動を展開。					
授業概要						
エレキギター黎明期から現代まで、英米のギターリストを中心に音楽史を探究する。 それぞれの時代において、各音楽ジャンルが発生した経緯や、社会的・歴史的な背景などを学び、サウンドや機材についての解説も行う。						
到達目標						
年代や各ジャンルにおける代表的なアーティスト、作品、ギタリストを把握し、自らのプレイスタイルの確立に活用する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	1950年代 ・ロックンロール黎明期の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ロックンロール誕生に繋がった、ブルース、R&B、ゴスペルなどの代表的なアーティストを学ぶ。					
【前期】 6～10回目	1960年代 ・1960年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ブルース・ロックとリヴァプール・サウンドの誕生。					
【前期】 11～15回目	・ブリティッシュ・インヴェイジョンの代表的なバンドを学ぶ。 ・サイケデリック、アートロックなどロックの多様化と社会運動との結びつき。					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	1970年代 ・1970年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ハード・ロックの確立と黄金期。・ロックの大衆化。					
【後期】 21～24回目	・プログレッシヴ・ロック、グラム・ロックの代表的なアーティストを学ぶ。 ・ジャズ・フュージョン。・パンク・ロックとニューウェイヴ。・AORの出現。					
【後期】 25～28回目	1980年代 ・1980年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ヘヴィ・メタル・ブーム。・オルタナティブ・ロックの出現。					
【後期】 29～31回目	1990年代 ・1990年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・グランジ・ブーム。・UKロック・ブーム。・コアパンク(メロコア)・ブーム。					
【後期】 32～37回目 (後期試験)	2000年代～現代 ・2000年代～の代表的なアーティストを学ぶ。・ラップ、メタル、メロコアなどのラウド・ロック全盛期。 ・インターネット、SNSを活動の中心としたアーティストの出現。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	作曲 & コライト		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	作曲 & コライト	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験13年 自身のバンド活動を行いながら、サポートギタリストとしてプロの道へ。現在はアニソンアーティストなどのサポートギタリストとして活動中。				
授業概要					
世界を代表するギタリストをピックアップし、その人物の経歴や楽曲を調べ自分のギタースタイルへ役立てる。					
到達目標					
ギタリストの歴史、テクニック発生の経緯、楽曲の歴史、各テクニックの知識の修得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～7回目	歴史的に有名なギタリストのギタースタイル確立に至る経緯と、その背景について				
【前期】 8～14回目	歴史的に有名なギタリストの楽曲の音色作りやそれに関するギターテクニックについて				
【前期】 15～19回目	歴史的に有名なギタリストの楽曲の作曲法やアレンジ法の解説				
【後期】 20～24回目	歴史的に有名な楽曲の理論構成について				
【後期】 25～29回目	歴史的に有名な楽曲の定番の音作りの研究や機材研究				
【後期】 30～34回目	それらの楽曲を実際に弾き、そのテクニックの研究や感想を言い合い、議論を深める。				
【後期】 35～37回目	今日までに先代のギタリストから学んだ歴史から自分の楽曲に活かす為の考察。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					